

スラブ幅計

レーザー距離計を対向配置させて、スラブ幅を測定する装置です。

特徴

- 距離計ボックス内の冷却機構により、熱間での測定が可能です。
- 搬送テーブル上でのスラブ走間測定により、スラブ幅の全長測定を行います。
- 1次元レーザー距離計対向配置によるスラブ厚み方向1点での幅測定以外に、2次元レーザー距離計への置き換えにより、スラブ幅の厚み方向分布測定が可能です。

対象材料

- スラブ幅 1000~2500mm
- スラブ温度 最大1000℃

装置仕様

- 測定精度（使用目的や設置上の制約に応じて最適な距離計を選定します。以下は適用する距離計種別毎に、冷間材を測定対象としたときの測定精度です）

- TOF(Time-Of-Flight)方式1次元レーザー距離計選定時 $\pm 5.0\text{mm}$ (2σ)
- 三角測量方式1次元レーザー距離計選定時 $\pm 1.0\text{mm}$ (2σ)
- 2次元レーザー距離計選定時 $\pm 2.0\text{mm}$ (2σ)

※TOF方式は三角測量方式に比べて距離測定精度は劣りますが、測定対象面から比較的遠く離れた位置に設置可能です。

- 装置構成 図1参照

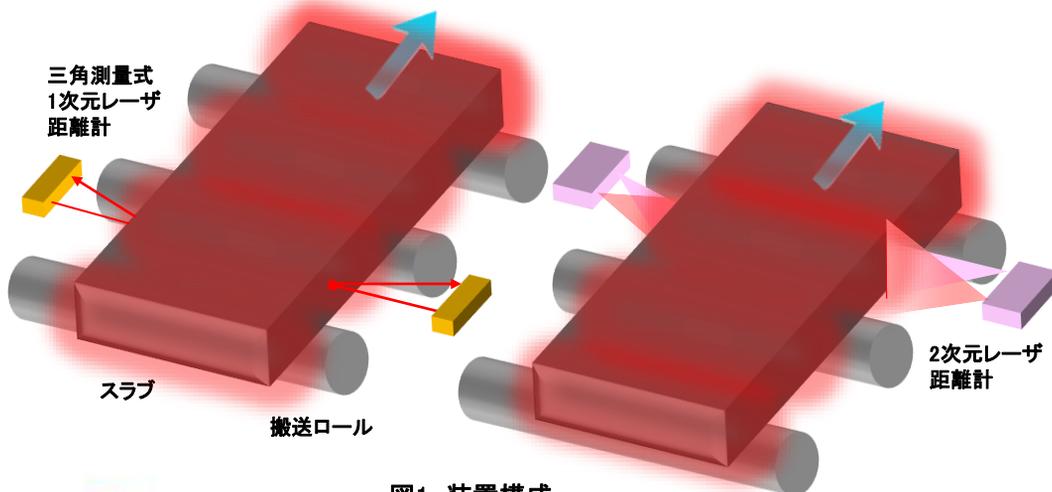


図1 装置構成



装置例

図2に、スラブ幅計に使用するTOF方式1次元レーザ距離計収納ボックス及び2次元レーザ距離計収納ボックス外観を示します。距離計収納ボックス内には、ボルテックスクーラーによる冷却エアを吹き込むことで、熱間材からの輻射熱の影響を受けることなく、長期間安定測定が可能です。

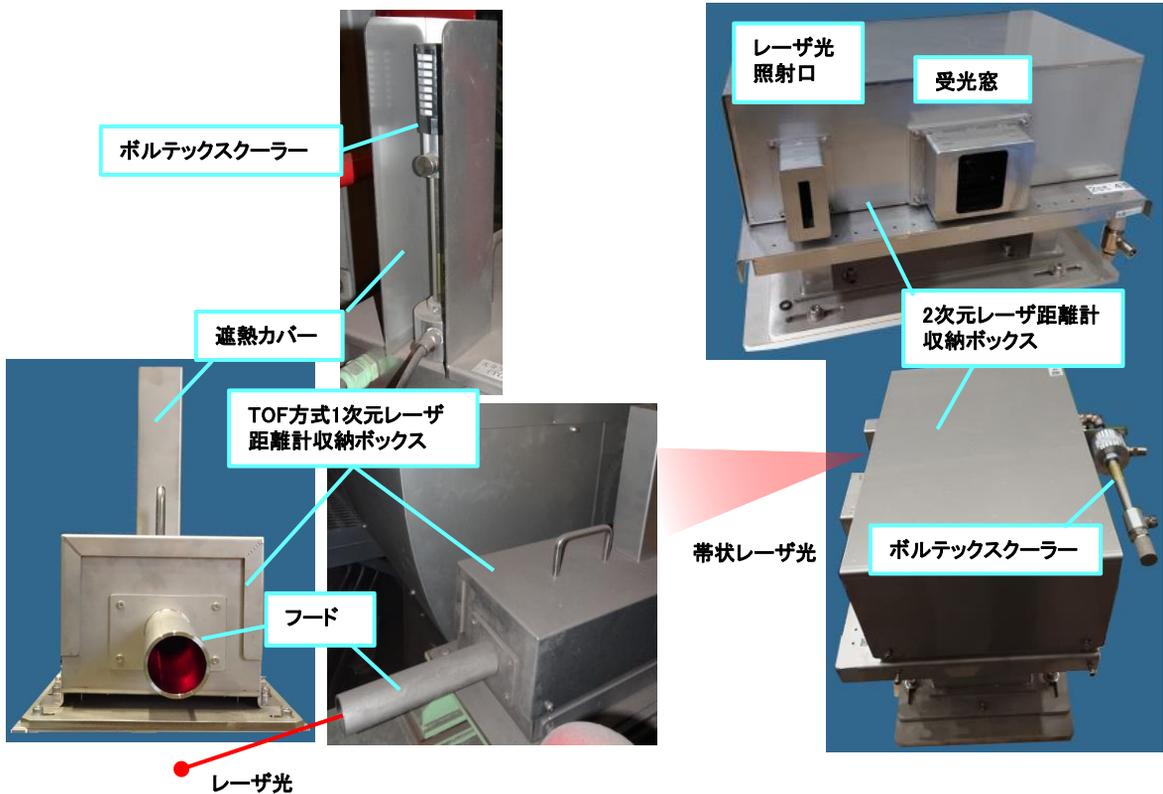


図2 レーザ距離計収納ボックス外観

その他

センサー一覧に戻る

是非ご相談ください。
<https://www.jfe-planteng.co.jp/>
最寄りの営業所・支店はHPをご覧ください。